

2005年1月26日

原子力委員会「新長計策定会議」

議長・近藤駿介様

若狭の仏教者からの要望・提言書

住所、電話番号につきましては、
プライバシーの観点から削除しました。

中嶋 哲演 (男、62才)

明通寺・住職

若狭の仏教者からの要望・提言書(1)

「もんじゅ」の大事故が引き起こされたのは、戦後50年目の1995年12月8日でした。その余りにも象徴的な意味を、私は若狭の一仏教者としてくり返し自らに問い直し、機会あるごとに訴えても参りました。戦後60年の節目の年を迎え、改めてその両義的な意味の重大性を、貴策定会議の全委員の方々にも訴えざるを得ません。

1941年12月8日の真珠湾奇襲攻撃が、4年後の広島・長崎の未曾有の悲劇へ直結した歴史を、私たちは真摯に想起すべきではないでしょうか。「冥土の王」に由来するプルトニウム原爆が、長崎にいかなる地獄をもたらしたか。貴策定会議が安易に、拙速に、「高速増殖炉サイクル」推進や「もんじゅ」の運転再開へ道をひらく「お墨付き」を与えられるならば(現に、「再処理」容認の中間報告は、早々に六ヶ所村工場の試験開始を促進!)、かの歴史をより深刻な様相でくり返すことになりはしないでしょうか。

(2)

ところで、12月8日は、おシヤカさまが「フツダ(真理にめざめた者・覚者)」と成られた日として、私たち仏教徒にとっては最も記念すべき祝日(成道会)でもあります。その「さとり」の内容を象徴的に表現しているのが、「智慧の文殊菩薩」と「慈悲の普賢菩薩」です。「もんじゃ」と「ふげん」の命名は、実にこの両菩薩に由来していることを、改めて銘記していただきたいと思います。

「文殊・普賢の両菩薩はそれぞれ、智慧と慈悲を象徴し、獅子と象に乗っておられます。それは強大な力を持つ巨獣を智慧と慈悲で完全にコントロールしている姿です。原子力の巨大なエネルギーもこのようにコントロールし、科学と数学の調和の上に立つのであれば人類の幸福は望めません」と、当初、日動燃事業団の方々は高唱されました。自らの科学技術にそうしたロマンを託されたことまで私は否定しません。しかし、若狭の仏教者の一人として、その前後の事実経過に照らしつ

(3)

つ、その解釈の当否そのものをも問わざるを得ないのです。

建設認可前からの現地への協力金分配、1万人の抗議デモを2千数百人もの機動隊・警察で制圧しながらの「公開ヒアリング」、自殺者まで出した事故隠し、安全審査のやり直しを命じた高裁判決への理不尽な攻撃、等々——これらを「文殊菩薩」はどのように観じて来られたのでしょうか。

仏教においては、「人類の幸福」のみを志向していません。文殊・普賢両菩薩の視野の中には、「生きとし生けるものの幸福」が含まれています。現代の核文明こそ、チェルノブイリ事故で実証されたように、まさに生きとし生けるものに「総ヒバク」を強い、幸福を奪っているではありませんか。そのことに鈍感なまま、「原子力の巨大なエネルギーを完全にコントロール」しようという科学・技術者の傲慢こそ、文殊菩薩は猛省を促されているのだと言えましょう。

しかし、地球の自然環境、生きとし生けるものと真に共生していくためには、私たち自身の内なる「巨獣」——貪欲をこそコントロールすることが求められているようです。私も参加している「原子力行政を問い直す宗教者の会」では、「少欲知足」「共生共貧」によりつつ「脱原発」へ——という提言を行なっています。共貧の「貧」は、自らの取り分は少なくなるが、財を分かち合う、というのが本来の意味です。反対に、「貧(むさぼり)」は、財を独り占めすること。地球の自然環境・資源を人類のみが独占して、多種多様な生物の生態系のバランスをこれ以上破壊することは許されません。最近の度重なる天変地異は、その大いなる警告でしょう。

ここで、貴策定会議に対し、一つの根本的な提言を致したいと思います。

使用済み核燃料のさらなる増加、その再処理とプルトニウム、高速増殖炉サイクル、「もんじゅ」の推進——といった巨大な負の遺

産を増大させる道へ踏み込みます、これまでにすでに山積させた宿題(既設老朽原発の廃炉、すべての放射性廃棄物の後始末など)の解決をめざす使命をこそ、10月に発足予定の新法人組織(日本原子力研究所と核燃料サイクル開発機構の統合組織)にになれさせる方針を決めてください。そのような改編組織となるならば、広範な国民の支持も得られるでしょうし、後世代への責任をはたすことにもつながるでしょう。

戦後60年目の今日、戦争を放棄した「平和憲法」の原点、初心が重く問い直されています。軍隊としての自衛隊を、自然災害等に対応、救援できる専門組織に改編し、国内外で貢献すること、平和憲法を内実化して行く道ではないかと私は考え、願っております。

いたずらに解体や廃絶を望むことなく、上記の新法人組織に対する要望・提言を行なっている所以をご理解いただき、貴策定会議においてご審議ください。